



## 成事在人(成事在人) 人界觀(人界觀)

---

View of Human Realm as Seongsajaein

# 目次

- 1 成事在人(成事在人)とは？
- 2 人界観(人界観)の概念
- 3 成事在人と人間の役割
- 4 東洋哲学における人界観
- 5 西洋哲学における人間観
- 6 事例および根拠
- 7 現代的適用
- 8 結論および示唆点



<

>

# 成事在人(成事在人)とは?

成事在人(成事在人)は「事が成るのは人にかかっている」という意味で、天(天)と対比される人間中心思想である。

- 古典的起源中国古典から由来した概念で、人間の積極的役割と責任を強調
- 哲学的意味外部環境や運命よりも個人の努力と意志が成否を左右するという思想
- く ● 現実的適用自然の産物というよりは人間の主体的努力で世界を変化させることができる
- 相互関連性個人の努力が集団的成果へとつながる社会的責任意識の強調

「およそ世の事は人が行えば成り、行わなければ成らない。これは人の意志と努力にかかっていることを意味する。」

成  
事  
在  
人

成事在人(成事在人)の漢字表現  
-成功と失敗は人間の努力にかかっている-

>

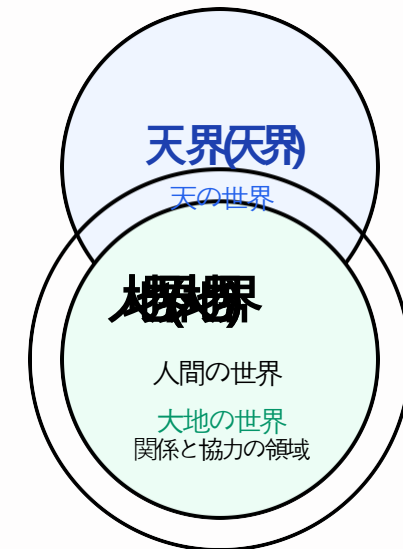
3 / 8

# 人界観(人界觀)の概念

人界(人界)とは人間が生きながら互いに関係を結び社会を成す世界を意味する。天界(天界)、地界(地界)と共に三界(三界)を構成し人間活動の領域を指す。

- 関係中心性人間が互いに結ぶ関係が世界の基本単位となる観点
- ◀ 主体的参与自然を受動的に受け入れるより積極的に介入し変化させる存在
- 社会的構成人間の共同体意識と相互作用が世界を構成する核心要素
- 価値創出人間の努力が基となり自然から文化と文明へと発展する過程

「人間が道道を成すのであって、道が人間を成すのではない。人界は人間が主体的に構成し発展させる世界である。」



三界(三界)における人界(人界)の位置と役割 人間活動と関係が中心となる世界

# 成事在人と人間の役割

- 成就の原理人間の意志と努力がなければいかなる事も成し得ないという信念
- 人間の努力と主導的判斷が社会と世界の方向を決定づける根本原理として、単なる運命論ではなく積極的実践と参与の重要性を強調する。
- 人間中心世界観「天(天)ではなく人(人)」に重点を置く人間主導的な思考方式主体的行為者  
人間は受動的觀察者ではなく世界の積極的行為者としての役割社会的責任個人の努力が集まり共同体の成否を左右する集団的責任意識

「名が正しくなければ言が調でなく、言が調でなければ事が成らない。事が成らなければ礼樂が起こらず、礼樂が起こらなければ刑罰が公正でなくなる。」



社会的連帯



実践的行動



主導的判斷



人間中心の社会発展モデル  
-人間の主体的活動が社会と世界を形成する-

# 東洋哲学における人界観(人界観)

東洋哲学では人間関係と社会的連帯を重視し、人間が天(天)と地(地)の間で調和ある役割を遂行しなければならないと見た。

- 儒教的観点人間の倫理的実践と礼(禮)を通じた社会秩序の樹立を強調。仁(仁)と義(義)の実践で理想的な人間関係を構築
- 道家的観点自然との調和を通じた人間の生の方向性を提示。無為自然(無為自然)の原理で人間本性の自由な発現を追求
- 仏教的観点人間内面の悟りと縁起(縁起)を通じた相互依存的世界観の形成。慈悲(慈悲)と智慧(智慧)を通じた人間完成を志向
- 三才論(三才論)天(天)・地(地)・人(人)の三つの力が宇宙を構成し、人間は天地の理致を悟り主体的に実践する存在

「天が人間に能力を与えたので、その能力で天地の理致に参与し万物の化育に共に参加する。これが人間が持つ天命(天命)である。」



## 三才論(三才論)

天(天)・地(地)・人(人)が互いに調和を成し人間は天地の意を知り実践する主体的存在として自然と社会の秩序を維持する中心的役割を担う

# 西洋哲学における人間観

西洋哲学は古代ギリシャから現代まで人間の本質と自由意志、社会的責任に関する多様な観点を発展させてきた。

- 古代ギリシャ:ソクラテスの「汝自身を知れ」、プラトンのイデア論、アリストテレスの目的論的人間観-人間を理性的存在として規定
- 中世神中心世界観の中で人間は神の被造物として原罪を持つ存在であるが、同時に神の形象を持つ高貴な存在
- 近代啓蒙主義カントの「自律的理性」、ルソーの「社会契約論」-人間の主体性と自由意志の強調、理性に基づく社会構成
- 現代実存主義サルトルの「実存は本質に先立つ」、カミュの不条理哲学-人間自身の選択と責任を強調

「人間は自由に生まれたが、どこでも鎖で縛られている。ある人は他人の主人だと思うが、むしろ彼らより奴隷となっている。」-ジャン=ジャック・ルソー

## 西洋哲学の人間観の変遷史

### 古代ギリシャ(BC5世紀~)

理性的存在としての人間、徳の実現を通じた幸福の追求

### 中世キリスト教哲学(5~15世紀)

信仰と理性の調和、神の被造物としての人間

### ルネサンス(14~17世紀)

人間中心思想、個人の価値と尊厳の発見

### 啓蒙主義(17~18世紀)

理性の勝利、自由と平等の価値の確立

### 現代哲学(19~21世紀)

実存主義、ポストモダニズム-主体性と自由意志の強調

# 現代的適用および結論

成事在人(成事在人)思想は現代社会の各領域で依然として有効であり、人間主導的思考方式の重要性がより一層強調されている。

- 組織文化自発的参与と主導的責任感が企業革新と持続可能な成長の核心要素
- 社会発展市民の自発的参与と責任意識が社会問題解決の原動力として作用
- 個人的次元自己主導的な生の重要性と能動的態度が人生の成否を左右
- 教育パラダイム他人依存型から自己主導型学習への転換が現代教育の中心軸

## 結論

「成事在人の人界観は人間の意志と責任を重視する哲学的伝統を現代に継承し、絶えず変化する世界の中で人間中心的価値観の重要性を呼び覚ます。」

## 成事在人の現代的実現領域



組織  
革新文化と主導性



社会  
共同体の責任と参与



個人  
自己啓発と成就



国際関係  
協力と相互尊重

成事在人(成事在人)は東西洋を包括する  
普遍的人間哲学として価値を持つ